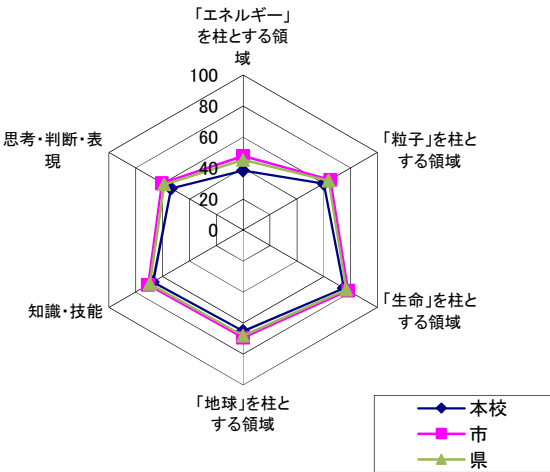


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	38.4	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	60.1	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	75.1	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	65.2	69.5	68.1
観点	知識・技能	67.2	70.8	69.5
	思考・判断・表現	53.7	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ●「電気のはたらき」における簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える設問の正答率は、16%と県の正答率を7.7ポイント下回っている。また無解答率も23.6%と高い。 ●「電気の働き」の電流が大きくなる回路を選ぶ設問の正答率は、45.3%で県の平均正答率を9.1ポイント下回っている。	・「直列つなぎ」と「並列つなぎ」の違いや、つなぎ方による電流の大きさや向きの違いなど、基本的な知識・技能の定着に課題が見られる。実験や観察を通して理解を深めるとともに、身の回りの事象との関連を図ることで、基礎的・基本的な知識の定着を図るようにしていく。 ・文章から読み取り、答えを導き出す設問で、無解答の児童が多く見られる。授業中に文章を読み取る活動を充実させて、題意を読み取る練習をしていく必要がある。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均正答率と比べて3.5ポイント低い。 ○「閉じ込めた空気の性質」におけるボールに空気を入れると弾む理由を考えて答える設問では、正答率が65%で、県の平均と比べると3.3ポイント上回った。 ●「物の温度と体積」における夏の線路のレールのつなぎ目がない理由について記述する問題では、46.2%と県の平均正答率を13.1ポイント下回っている。また、無解答率も28.3%高い。	・読み取ったことや考えたことを記述して答える問題の正答率が低い。実験や観察をした際には、考察や結果の確認をするだけでなく、グループで話し合う時間を取り、意見を交換する機会を増やすことで、考えを深めたり、自分の言葉でまとめたりして、書く力や考えをまとめる力を高めていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、75.1%と県の平均正答率と比べて同等である。 ○「ヒトの体のつくりと運動」の関節の名称を答える設問では、92.5%と県の平均正答率と比べると、5.1ポイント上回っている。 ○どの設問も、無解答率は0であった。 ●春や夏の気温や動物の様子を選択する設問では、74.5%と県の平均正答率と比べると7.4と下回っている。	・「生命」に関する領域については、基礎的・基本的な内容は概ね身につけてきている。しかし、気温と生物の行動の関係性など、いくつかの知識をつなぎ合わせる力に課題が見られる。学習内容と日常生活の関連を重視した活動を意図的に設定することで、習得した知識・技能を活用して問題を解決する力を高めていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は65.2%で、県の平均と比べて2.9ポイント低い。 ○「月や星の動き」における方位磁針の正しい使い方を答える設問では、正答率は63.2%で、県の正答率を4.5ポイント上回っている。 ●「水のゆくえ」における排水口が作られているところの特徴について説明する設問では、正答率が29.3%と県の正答率8.9ポイント下回っている。また、無解答率も25.5%と高い。	・どの単元においても、知識の定着は見られているが、読み取ったことや考えたことを記述して答える問題の正答率が低い。また無解答の割合も多いため、実験や観察を通して、自分の考えを書いたり、まとめたりする機会を設けて、自分の言葉で表現する力を付けていけるようにしていく。